

出張報告届

2025年 9月5日

吹田市議会議長様

会派名 市民と歩む議員の会

代表者氏名 梶川 文代

出張者氏名 五十川 有香

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 出張先   | メイシアター・危機管理センター・万博記念公園     |
| 期間    | 2025年 8月 20日から 8月21日まで 2日間 |
| 出張の成果 | 別紙のとおり                     |
| 備考    |                            |



2025 8/20-8/21 全国政策研究集会 in 大阪吹田

【内容】 共通テーマ：今こそ何度も自治を問う

基調講演1 選挙とメディア 江川紹子さん（ジャーナリスト）

基調講演2 デモクラシーと地方自治～自治の必要性を再考する～  
坂本治也さん（関西大学法学部教授）

- 1 自治とは何か、何のために必要か
- 2 自治が必要な理由
- 3 人々は自治にどう向き合っているのか
- 4 私たちはどうするべきなのか

分科会2 くらしと政治をつなぐ市民活動～市民自治を問う～

活動報告：長谷川美津代さん（吹田傾聴ほほえみ）、田村幸大さん（NPO 法人なごみ事務局長）、コメンテーター 坂本治也さん（関西大学法学部教授）

分科会4 子どもの日常から考える「子どもの権利」

吉岡洋子さん（関西大学社会学部教授）、水木千代美さん（NPO 法人 COCONI 代表）

### 【所感】

まず、基調講演1での江川さんの「メディア」についてのお話は、地方議員の役割を再考する上で、非常に示唆に富むものでした。

「メディアが地方の内容を全国に広めることができたのは、そこに記者が存在し、地域に根ざした取材をしていたから。地方こそ大事だけど、効率化の名の下にメディアの地方拠点が減少しているという現状がある。」というお話からは、まさに、地方議員にも共通するものがあると感じた。地方議員や国会議員を減らそうという動きと共通する課題であると思いました。私たちの役割として、そういった地域に暮らす人々のこぼれそうな市民の声も拾い上げる「アンテナ」を立てることができる点などあらためて、その大事さを感じました。

また、ここ最近の選挙からの学びとして、情報のファクトチェックを地道にやっていくことが選挙よりも前の今でもできることで地道にやっていくことが大切と言われていたのは市政に関することについても同じだと感じました。改めて地方議員として、身近な「市民の声」に耳を傾け、その一人ひとりの声を持つ意味やその背景を尊重しながら、誰もが安心できる市政づくりに向けて尽力していきたい。

次に、基調講演2の坂本さんからは政治学の視点から「デモクラシーは壊れやすい。」このデモクラシーを護るために「自治」は必要にもかかわらず、いま日本人は「自治」から逃げようとしているという問題提起がありました。

講演で強調された自治の重要性は、私たちの活動意義を再確認でき、勇気をいただきました。自治は、権力の分散と抑制、民主主義の学校、地域同士の政策競争によるより良いサービスを促すものです。

「民意こそが全てだ」というポピュリズムに陥るのではなく、徹底した議論と妥協こそが政治の上で、大切なものであり、それには、市民サービスを生み出す上で、不可欠な要素であるというご指摘は、日々の対話の重要性を再認識させていただきました。

私自身もいつも、「地方自治の本旨」という言葉を使って討論など行いますが、改めて、机上の空論にならない住民自治と団体自治を実現していくための「対話を諦めないこと」が非常に大切なことだと感じ

ました。

そのためにも、住民にとって「政治はなんか難しいし、何しているかわからない」から、少しでもわかりやすく、「こういうことなら自分もちょっと意見してみようかな」という参加する市民につなげられるよう「合理的無知」に対して、わかりやすい発信等により努力をしたいと思います。

また、学校と職場における議論を交わすこと、つまりは日常生活の中から民主主義を育てるという仕組みはなかなか現実的には難しいが、日本全体的にとっても大変重要なことです。地道な議論を重ねてつなげていくことが必要ですが、これを地域で試しながら民主主義を育てることで、真の地方自治を実現できる大きな可能性を感じた。(対話の力)

坂本先生の講演については最後に江川さんから以下、コメントをいただきました。

「権力の Check アンド バランス を無視しがち。立憲主義的な部分が壊れがちになる。都合の悪い人を排除するという事を見逃してしまうことからデモクラシーが壊れていく。」

これらお言葉から改めて、議員というものは、行政への監視機能はもちろん、議会内外において、いろんな考えのある人たちと徹底的に議論をしてその上で妥協点を探り市民サービスへとつなげていくことも非常に大切なことであり、二元代表制の中で、その考えを議員間で共有していろんな角度からの政策提案となれば、より実現しやすいだろうと思いました。なかなか市議会内において自身の考えなどについて議論を深める機会は委員会質疑や視察くらいかなと思うところですが、自分自身、できることから実践していきたいと思いました。

分科会2は、くらしと政治をつなぐ市民活動～市民自治を問う～でした。

長谷川さんは、30年以上前から日頃の生活から介護保険制度に目をつけられて、政策の中や制度だけではなかなか拾えていない、心同士がつながる活動にたどり着いて傾聴ボランティア等の活動、政治(特に女性)の話を中心にできる仕組みづくりをしていきたいという活動報告でした。

田村さんは、NPO 法人なごみという「地域の居場所」とその運営を若手もベテランも融合してされていることの大切さ(別の機会で実際その場所に視察へ行かせていただきました)のお話をいただきました。田村さんの「この違和感は何か。」から、行政の中に直接的に入り行政側の立場にもなることで「地域の方々の暮らし」などに対する考えのずれ感じてそれを伝えるなど努力をされていること。また、大学に授業をしてその学生たちと地域に入っていくという活動をしてきた。ただ、その活動の場が地域にない。と感じたことで、やはり、その活動の場を設けることが大事と感じて実践しているとのことでした。

お2人とも自身の思いに忠実に行動されていることと、衝突ではなく、それぞれ柔軟にその場を大事に作ってらっしゃる姿勢に感銘を受けました。

坂本先生とのやりとりにおいては、それぞれ「主体的」を大切にされていることや、「地域の傾聴力を高める。」という長谷川さんのお言葉は心に響きました。

地域には一人一人、多様な人々が暮らし、それぞれの課題意識からさまざまな取り組みが生まれています。私たちが目指すべき「自治」とは、そうした一人ひとりの主体性を尊重し、地域をより住みやすく、居心地の良い場所にしていける実践であると再認識しました。

この「自治」を支えるためには、行政が地域から生まれる公共的な要素を積極的に学び、サポートしていくことが不可欠です。自治体の職員、議員、そして住民がそれぞれの立場でできることを共有目標のもとに実践していくこと。これこそが、地域の力を高める「自治力=地域力」となると確信しました。それ

らが行政の魅力につながり、行政力が評価されるような仕組みも求められているのではないか。と思いました。

分科会4は子どもの日常から考える「子どもの権利」でした。

吉岡さんからは、コルチャックの表現などを引用しながら、「子どもの権利」のメガネで物事をみることについての意義について、具体的な法制度やその事業などのご紹介がありました。

特に、子どもの意見を聴くということについて、英語では、「Opinion＝自分の意思で言語的に表出すること」ではなく、「Views＝態度やしぐさなども意見」ということは、とても大切なことだけど、広まっていないというご指摘は重要だと感じました。

その声をどこかで、聞いてもらえる。少しでもその声を取り入れられて事柄がすすむ。というような経験をすることが大事。海外での事例として、メーデーのデモに子供が参加していたり、若者団体等のNPOが法案への意見提出ができたりするレミス制度などをご紹介いただき、「子供が声を上げやすい環境や仕組み」を作るかがいかに大事だ。というお話をいただきました。

水木さんのお話からは、長年、地域での居場所活動の報告と、日本で不登校が増えている実態や相対的貧困率、若者の自身との社会の関わり方についてなどの現状分析、ボランティアをした子どもたちはいろんな子どもたちにもメリットがある。という状況も示していただきました。

その上で、子どもの4つの権利（差別の禁止、子どもの最善の利益、生命、生存及び発達に対する権利、子どもの意見の尊重）について事例を交えながら示唆いただきました。

その後の司会との対談等から、「子どもの今を見る。力を信じること」その上で、子どもたちから教えてもらえる行政課題を敏感に察知し、それを政策に反映していくことが重要だと感じました。そして、各市で実践されている地域の活動等と共に「子どもの権利」を尊重できる仕組みづくりを政策的に実施していくことが私たち議員や行政に求められていることを強く感じた。こういった活動されている方々と連携をして、常に、子どもの権利を意識した提案、子どもに寄り添う姿勢をもって日々の課題をよりブラッシュアップできる仕組みづくりへと今後とも尽力していきたい。

午後からはオプションツアーとして、吹田市の危機管理センター(本庁3階の常設ワンフロア化)と万博記念公園の太陽の塔の内部とエキスポ70パビリオンの見学に行きました。

吹田市の危機管理センターの仕組みについては他市の議員の方々は、既存の建物を改修してワンフロア化を実現している状況に驚いておられました。

また、太陽の塔の内部やパビリオンを拝見することで、当時の世界経済や日本における科学技術の進歩が今日に続いていることを実感することができました。他市の議員の方々と意見交換をしながら、吹田市の魅力を改めて感じ取ることができたのではないかと思います。